



“カラフルな恐竜”
6歳児 韓国

幼年美術

595

2018 7月号

発行所 大阪府東大阪市長田中4丁目6-3
ぺんてる(株)大阪支店内

全国幼年美術の会 〒577-0013 ☎(06)6747-1601

発行人 廣富靖海

年間購読料 3,000円 1部300円(送料込み)

第48回 世界児童画展 作品より



“ダンゴ虫の親子”
4歳児 広島県



“ほしみて たのしかったよ”
5歳児 富山県



「窓辺のコチョウラン」
100号
光風会展 新国立美術館

全国幼年美術の会 常任委員 谷岡経津子

自然豊かな環境の中で美しいものを美しいと感じる心根が大切です。それには自然的な遊びと生活を中心に友達同士のかかわり、人と人とのつながり等、子どもの思いに寄り添い育ちに繋がる言葉がけなどを大切にすすめていきたいものです。

先日、四日市の岡田文化財団パラミタミュージアムでの「ヴラマンク展」へ行ってきました。ピカソやマチスなどと同時代に生き、強烈な色彩を特徴とするフォーヴィズムの有名な画家です。氏は絵画と言葉で紡ぐ人生でした。その言葉は幼児の「表現」領域にも通ずるものがあり抜粋します。「それぞれの季節が廻り、花が咲き心臓が高鳴ることの上もない幸福、光と影があり、空と水の色彩が存在するこの幸福、貴重な財産であり、作品を生み出す原動力であることを・・・」

地球温暖化のためでしょうか？今年も猛暑が続きます。暑い中ですが、夏季大学も近づき皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

巻頭言

美しいものを美しく感じる心根

はじめに

温暖化や砂漠化などの環境問題を抱えて地球の危機と言われる今、人の基礎を培い未来を担う就学前教育への期待が高まってきた。今年四月から改定(訂)保育指針や教育要領が施行され、保育の質の問題への関心も集まっている。

三重幼年美術の会や全国幼年美術の会での学びの中で、今求められている教育を実現できるのは造形活動であると確信した。

三十六年間の幼稚園現場や最近関わらせていただく機会が多い保育園現場の中で子どもたちとの生活からもらった幸せに感謝し、就学前教育の大切さや生きることの素晴らしさを広めていきたい。

共同制作の嬉しい依頼

昨年松阪市立掃水幼稚園の園長先生から、創立六〇周年記念式典で披露する大型絵画の共同制作の作成指導を依頼された。

今回は昨年の秋、掃水幼稚園の先



生たちや子どもたちと取り組んだ時の造形活動の報告である。

掃水幼稚園について



掃水幼稚園は、松阪市の東部に位置し、敷地が小学校に隣接している独立園である。近くには櫛田川が流れ、農村地帯もあり豊かな自然に囲まれている。昨年度は四歳児、五歳児合わせて二十五人が生活していた。

テーマや画材などについて

共同制作は子どもたちの対話力を

育てることにもなる。まさに今求められる教育に生かせる取り組みだ。一杯取り組み、子どもたちが興味を抱いて描き、心から喜び合える内容を工夫したいと思った。園長先生からは「百年後も見られるような作品で、見た人が幸せになれる明るい作品にしたい」との思いが伝えられた。先生たちとも連絡を取り合ってテーマや画材などについて話し合っ

た。園児たちの気持ちも探ってもらいながら最終的には「みらいの ていすいのまち」のテーマで取り組むことになった。自分たちの地域を好きになり、自分たちの人生を歩む中で心の糧とし、未来を切り開いてほしいとの願いからである。

明るい未来をイメージして思う存分制作に取り組めるように大きくて丈夫な銀の紙を用意した。銀の紙に振り絵(筆に専用の絵の具をつけて筆を振って描く絵)を施すことによつて、世界に一つしかないキャンパスを創ることを提案した。土台になる板は、壁に掛けるという性質上、軽くて丈夫で長持ちしそうな板をあちこちで探し当て、園に、事前に購入してもらった。絵の具やクレヨンとの紙の相性も実際に試してみ決めていった。

紙を切ったりつないだりの前日準備を園長先生や先生たちと行いながら教材研究の大切さを共有し、また、

教師が常に工夫や研究する態度が子どもたちに伝わり、子どもたち主体の保育につながっていったのだ。先生たちとコミュニケーションをとる中で、子どもたちの無限の可能性を引き出す力にもより一層一体感が生まれた。そして当日が雨天にならな

未来人らしい衣装で登場!

いよいよ造形遊びの当日の十月十八日を迎えた。初対面の私がまず子どもたちにとのよう映るのか? 今回は思いきって未来人らしい出で立ち(写真参照)にした。カラフルなヘアート、ズボンに赤のスパンコールつきのものだ。豊かな未来のイメージを抱かせたいと工夫した点である。また、私の話に興味を持って





ほしいと大きなまるで本物の犬に見える腹話術の犬も抱いて登場した。子どもたちは宇宙人が魔法使いと思っただようであった。
造形活動に取り組む前に子どもたちと一緒に「空にらくがき描きたいな」という歌を歌った。初対面でも共に歌うことは、心を通わせることになると思っただからだ。

「私も描きたいなあ」

歌い終わった後、私の抱いていた犬(腹話術の犬)が「絵を描きたくなっちゃった」と言う子どもたちもその気になったようであり、外へ行き、振り絵を始めた。(写真

参照) 手足が汚れるのを気にしてか、振り絵をするのを戸惑っていた子どももいたが、周りの子どもたちの楽しそうな姿を見て振り絵に参加した。「きれいな雨みたいやなあ」「ほんとやなあ」「宇宙みたい!」等とつぶやいたり友だちとの会話を楽しみ、次第に大胆になり笑顔がたくさん見られた。中には振るだけでなく思わず直接紙に描く幼児もいた。それが力強い表現を創り出して良い持ち味を出すことにもつながった。中に入ってから小雨が見られた。天候も雨を降らすのを少し待っていてくれたようだ

「銀の窓から未来が見えた!」

私の手作りの銀色の輪から、のぞいて見せて「これは未来が見える不思議な窓なのよ。未来がどんなふうになっていると思う?」と子どもたちに問いかけた。私や先生たち、職場体験中の中学生たちが見えたものを次々と発表すると、子どもたちは「へえ!」「すごい!」などと歓声をあげた。子どもたちも「きれいな花がいっぱい」「ヒーローがやってきた」「みんなが宇宙船にのっている」等と発表した。

そして、子どもたちは窓に見立てた○と□の紙の好きな方を選んでクレヨンでそれぞれの未来の絵を描い



た。(写真参照) 私は描き終えた子どもの作品を喜びを持って見て一人ひとりに声をかけをし、一緒に両手をあげ、「やった!」と叫んだ。どの子どもも満足気だった。

「もっと描きたい」「もう一枚描くわ」と、どんどんイメージを膨らませ表現に意欲を燃やす子どもたちであった。

「全部楽しかった!」

全員が絵を描き終えた時、子どもたちに感想を聞いてみた。「振り絵が楽しかった」「○○を描いて楽しかった」「全部楽しかった」「ほくも」「私も」と満足げに答える子どもたちであった。

その後、大きな板の上に振り絵を



施した銀の紙を貼り、その上に子どもたちが描いた未来の絵を貼り付けた。



みらいのていすいのまち

